

## 令和6年度第4回東大和市子ども・子育て支援会議 要録

〔日 時〕 令和6年10月2日（水）午後2時～4時  
〔会 場〕 会議棟 第4・5会議室  
〔出席人数〕 委員10人（1人欠席）  
〔傍 聴 人〕 0人  
〔内 容〕

### 1 議題

#### ○審議事項(1)「東大和市子ども子育て未来プラン第2章・3章（案）について」

【委員】外が暑いためリビングテラスで子どもたちが勉強に集中していた。東大和リビングテラスのような場所が増えると良いと思う。子どもの居場所にもなるが、子ども食堂など情報を周知する観点からもこのような場所が増えると良い。

【委員】まだスペースが空いていたので、桜が丘や上北台にもリビングテラスのような居場所をつくと子どもたちは喜ぶと思う。

【委員】子ども食堂を主催する利用料が高い。場所を借りるのにお金がかかるから月に1回の開催になってしまう。市が補助することも良いのではないか。

【会長】居場所で知り合った人たちから様々な情報を知る事もできるし、子ども食堂など言葉は知っているが場所を知らない人も、ポスター掲載をすることで知る事ができる。

【会長】子ども食堂は社会福祉協議会の担当だが、市とバランスよく周知することを検討してもらおう。

【委員】周知の仕方、ポスターがある学校とない学校がある。特定のポスターを貼ることは可能なのか。

【委員】原則教育委員会の判断で、校長判断のものもあるが、無造作に全部大丈夫というわけにはいかない。

【委員】プラン案に掲載されているいじめの認知件数が格段に上がっている。昔はいじめとしてあげるのが難しかったが、近年は、いじめと感じればいじめとなるので、何年か前との比較をすれば当然増える。定期的にいじめ調査などを行っている等、増加の背景を補足すると良いと思う。また、不登校児童についても増えてきていると思うが、校内サポートルームなども多く行っているため、いじめ件数と同様に補足説明を付け足すと良いと思う。

【委員】「東大和市の現状」というところで、調査対象が、未就学児と小学生は保護者が対象、中学生、高校生は本人が対象と書いているが、回答欄を見ると、未就学児、小学生としか書いていないため、保護者目線からなのか、本人目線なのか、どちらからの回答なのかわかりやすくかいた方が良い。

【会長】データを掲示する時は、その時の実態を正確に示すべきであるから、確かに調査の背景や、補足説明は入れた方が良い。

【事務局】市長部局と教育委員会とで検討してプランへの掲載や、来年度以降の事業展開について考えていきたい。

【委員】不登校に対して校内サポートルームが今年度から始まり、巡回する形ではあるが、市が取り組んでいる非常に良い機能だと感じている。取組として、居場所づくりを重視している。今まではどうしても教室に入れようとするところがあったが今は、子どもに応じて、居場所づくりをしており校内サポートルームで過ごす子もいる。そこは子育ての中で安心できる状況であると思う。

【委員】市でも様々な取組を始めているが、部活動の地域移行についてはどうなっているのか。地域移行する方向であると聞いているがどうして行く予定であるのか。

【事務局】プランに掲載する取組として候補にあがっているので、調整してお知らせしたい。

【委員】不登校件数が上がっているが、不登校の背景には家族の影響が大きくあるので、家族の背景まで詳しく調査していくと良いと思う。

【事務局】子ども家庭支援センターと連携してスクールソーシャルワーカーがある程度把握をしていると思う。しかし、家族の背景まで把握しているか不明であり、計画に直接的に反映できるかはわからないが、確認する。

【委員】今までは何かを伝えるのは学校が起点となっていたが、不登校などの子が増えて、状況が変化している。スクールカウンセラーに加えて複数の相談方法の設置が必要。何をやれば正解かわからないが、子どもの視点で考えることが大切。

【委員】中学校で部活動に入るかクラブチームに入るか決める際にも情報格差がきている。保護者、児童、生徒に必要な情報の提供が必要。

【委員】公園の話があったが、市に電話をした時に、市の管轄ではないから対応できないと言われたことがあった。

【会長】市はやりたくても管轄が東京都であると対応できないことがある。都営住宅もその一つだが、東京都の受付を教えるなど、繋いでくれると思う。

【委員】市内から子どもが減っているが、新しいマンションができる。そこで子どもが増えてくれば良いが、市外に出て行っては意味がない。もっと市で長く暮らしていきたいと思える対策ができれば良いと思う。

【委員】地域全体というのが学校も地域に入るっていうイメージで、プランに入れてほしい。

## 2 報告事項

### ○報告事項（1）令和7年度保育施設の入園案内の配布及び、令和7年度4月入園の1次申請の受け付けについて

【事務局】

- ・「令和7年度保育施設入園案内」について  
10月1日から令和7年度の保育施設入園案内開始  
＜昨年度との変更事項＞保育の利用基準表週換算から月換算（月20日）に変更、地域に貢献していただく消防団等に加入している方への加算 等

- ・「多様な他者との関わりの機会の創出事業の実施について」について  
令和6年10月1日より新しい新規事業として開始  
対象：市内在住で保育園等を利用していない原則0歳児から2歳児までの事業が対象  
事業内容：定期的に2ヶ月以上中長期的に預かるような事業  
実施場所：東大和こども園

【委員】調整指数の貢献度について、ボランティアにも交通ボランティアや公園の花植えボランティアなど様々あるが、消防団のようにしっかり母体がないとだめなのか。

【事務局】ボランティアはとても幅広いため、線引きをする必要がある。市民公募の委員の方などは加点の対象としているが、どれだけ活動し、貢献しているのか証明するのが難しい。そのため証明ができるものという形で始めている。ただ今後、加点対象を変更する可能性もある。消防団とか、誰が組織に所属していてそのところが証明できることが前提になってしまう。

## ○報告事項（2）こども家庭センターの開設について

【事務局】児童福祉法に規定するこども家庭センターを設置するために、改修工事等を第3回市議会定例会にて補正予算として計上し、議決をされた。

主な改修内容は会議棟の南部分に、現在の子ども家庭支援センターの、総合相談係など、事務所と相談室を移転する。あわせて隣接する保健センターの中にある母子保健担当部門と、一体的な運営を行って、こども家庭センターを開設する予定。

現在の子ども家庭支援センターは、建物が老朽化していることから、令和6年度で使用終了。一時預かりと交流スペース等は、3月で実行終了予定。

老朽化の理由から今後の活用予定は今現在決まっていない。

令和7年度以降の一時預かり事業や子育てひろば事業は、保育園の一時預かりや子育てひろばで補完し、ベビーシッター利用支援事業や定期預かり事業など、市民の皆様に案内をする予定。

【委員】子どもを連れて行って遊びながら、育児について相談する機会あったが、これからはなくなってしまいます。今まではそこから支援に繋がっていた人たちが結構いると思う。その機能が無くなってしまふことが心配。保育園に行っていない親御さんたちの相談場所があると良いと思う。

【事務局】一時預かりについては、市内5つの保育園でやっている。そこには、専任の保育士がついて一時預かりをしている。もしそこで気づいたことがあれば、そこからこども家庭支援センターの方に情報提供を送ることを今までもやっているしこれからも従来通りしていく。支援に直接繋がるってところでは今回なくなってしまふが、気になるご家庭や児童がいれば、そこからこども家庭センターにつなげることは継続していく。

【事務局】これまでは子どもが遊んでいる横で専門の相談員と相談することができて、そこから支援につながっていたが、これからはこども家庭センターを起点に連携を強化していくことが必要になってくる。

なお、今子育てひろばを行っている保育園で一時預かりも併設しているところが5園中3園ある。相談員が近くにいる機会はなくなってしまふが、子育てひろばと一時預かりで、引き続き連携できる場所はある。

【委員】フットワークが軽い人達は変わらず来ると思うが、そうでない人たちが余計に子育てひろばにこなくなってしまう。そこが心配なので、他に子育てひろば等があることを周知して

ほしい。

【委員】出張かるがもは、今後どうなるのか

【事務局】出張かるがもは終了する。保健センターでやっている母子保健事業でもいろいろな場所に出向いてやっている事業があり、出張かるがもと重なる部分がある。今後の事業をどうするかは健康推進課と調整する。

【委員】出張かるがもで、集まるお母さんたちの子どもとの接し方を見て、アドバイスを送りたくなるようなお母さんがいたり、いろいろな相談を聞くことができる。専門の人が言うことも勿論だが、お母さん同士で情報交換したり、地域の人たちと関係を築くことができ、そのようなことはすごく大切なことだと思う。

【委員】私も10年前に何度もアドバイスをいただいたり、困難なことを相談したり友達ができたりしたので、無くなってしまうのはとても残念。同じような事業があると良いと思った。

【会長】指導員よりも寄り添う形で、話を聞いてくれる方が良い時もある。

【委員】出張かるがもに行けば誰かいるし、話をするのができたので、繰り返しになってしまうが、同じような事業を検討してもらいたい。